

## 第141回日商簿記2級<予想祭+補講>解答

1. 下記の有価証券に関する一連の仕訳を行いなさい。決済科目の指定のない場合は現金で処理しなさい（なお、科目は適当な科目を使用して下さい）  
※学習確認用のため、現金をCと記入しても良い

当社およびB社の決算は3月末日とする

<第1期（×6年4月1日～×7年3月31日）>

- ① 4月1日満期保有目的でB社社債を発行と同時に95,000円で購入した  
B社社債（額面100,000円、利払日毎年9月末日と3月末日に各2,200円、償還期限5年）当社では償却原価法定額法により当社債を評価している

満期保有目的債券 95,000 / 現金 95,000

- ② 9月末日、B社の社債利息の期限が到来した。

現金 2,200 / 有価証券利息 2,200

- ③ 12月1日、売買目的でA社社債を購入した。端数利息とともに当社発行の小切手で97,800円を支払った。（利息計算期間：4月1日～11月30日）  
A社社債（額面100,000円、利息7.3%、利払日毎年3月末日）

売買目的有価証券 92,920 / 当座預金 97,800  
有価証券利息 4,880

- ④ 決算につき必要な処理と利息の決済を行った。

A社社債の時価：97,000円  
B社社債の時価：95,000円

A：売買目的有価証券 4,080 / 有価証券評価益 4,080、現金 7,300 / 有価証券利息 7,300

B：満期保有目的債券 1,000 / 有価証券利息 1,000、現金 2,200 / 有価証券利息 2,200

<第2期（×7年4月1日～×8年3月31日）>

- ⑤ 期首の仕訳を行いなさい。当社は売買目的有価証券を洗替法を実施している

有価証券評価益 4,080 / 売買目的有価証券 4,080

- ⑥ 5月10日C社株式1,000株を売買目的で@300円で購入した。証券会社10,000円の手数料とともに現金で支払った。

売買目的有価証券 310,000 / 現金 310,000

- ⑦ 6月30日C社株式1,000株を@320で追加購入した。証券会社への10,000円の手数料とともに現金で支払った。

売買目的有価証券 330,000 / 現金 330,000

- ⑧ 7月31日A社社債を当日の時価98,000円で売却した。端数利息とともに普通預金に入金された。(利息計算期間：4月1日～7月31日)

普通預金 100,440 / 有価証券利息 2,440  
/ 売買目的有価証券 92,920  
/ 有価証券売却益 5,080

- ⑨ C社株式500株を150,000円で売却した。尚、C社株式は平均法で評価している。手数料は考慮しなくても良い。

現金 150,000 / 売買目的有価証券 160,000  
有価証券売却損 10,000

- ⑩ 決算処理を行った(利息の決済は不要です)

B社社債の時価：93,000円  
C社株式の時価：@350円

B社：満期保有目的債券1,000 / 有価証券利息1,000  
C社：売買目的有価証券45,000 / 有価証券評価益45,000

2. 当社が切放法を実施していた場合、第2期の期首の仕訳はどのようになりますか？

仕訳なし

3. B社の第1期、第2期末の決算仕訳を行いなさい(利払いの仕訳は必要ない)。  
社債の発行価額と額面額の差額は金利調整差額であり、B社では償却原価法定額法により社債を評価している。発行時に社債発行費5,000円を支払い原則的な会計処理で記帳している。

<第1期>社債利息1,000 / 社債1,000

<第2期>社債利息1,000 / 社債1,000

4. 次の貸倒引当金に関する一連の仕訳を行いなさい

<第1期>

- ① A社に 100,000 円の掛け売りを行った。  
売掛金 100,000 / 売上 100,000  
  
B社に 200,000 円の掛け売りを行った。  
売掛金 200,000 / 売上 200,000
- ② A社が事実上の倒産状態となり、売上債権が回収不能となり全額損失を計上した。  
貸倒損失 100,000 / 売掛金 100,000
- ③ C社に 50,000 円の掛け売りを行った。  
売掛金 50,000 / 売上 50,000  
  
他の取引先に、合計 50,000 円の掛け売りを行った。  
売掛金 50,000 / 売上 50,000
- ④ Z社より 30,000 円の仕入を行い為替手形を振り出し、C社引受のうえZ社に手渡した。  
仕入 30,000 / 売掛金 30,000
- ⑤ 一般債権（B社、C社および他の取引先への売掛金は一般債権である）に 55/1000 の貸倒引当金を設定した  
貸倒引当金繰入 14,850 / 貸倒引当金 14,850

<第2期>

- ① A社の債権のうち 10,000 円が回収できた。  
現金 10,000 / 償却債権取立益 10,000
- ② B社の売掛金が普通預金に 199,500 円入金された。なお、B社との契約では振込手数料は当社負担の契約となっている。  
普通預金 199,500 / 売掛金 200,000  
支払手数料 500
- ③ 取引先の1社の売掛金（一般債権）11,000 円が回収不能状態になった。  
貸倒引当金 11,000 / 売掛金 11,000
- ④ C社より掛代金 20,000 円が普通預金に振り込まれた。  
普通預金 20,000 / 売掛金 20,000
- ⑤ 他の取引先に合計 300,000 円の掛け売りを行った。  
売掛金 300,000 / 売上 300,000

- ⑥ 一般債権（他の取引先への売掛金は一般債権である）に 55/1000 の貸倒引当金を設定した（差額補充法）  
貸倒引当金繰入額 14,795 / 貸倒引当金 14,795

- ⑦ ①で使用した収益科目の損益計算書上の表示区分を教えてください  
営業外収益

#### チャレンジ問題

前期期首に取得した備品（取得価額 150,000、決算整理前試算表の減価償却累計額 52,000 円、耐用年数 10 年、定率法：償却率 20%）の減価償却費につき、決算時の仕訳を行いなさい。尚、当社は月次で減価償却費の計上を間接法により行っている）

減価償却費 2,000 / 減価償却累計額 2,000

<当期の期中仕訳の合計が 22,000 円のため差額のみ計上>

#### チャレンジ問題 2

決算整理前残高試算表の仮払消費税勘定、仮受消費税勘定、仮払金勘定（消費税の中間納付額）の残高はそれぞれ 300,000、650,000、180,000 であった。消費税申告書で計算された当期の納付額は 345,000 円（中間納付額を控除した納税予定額は 165,000 円）であった。当期の消費税計上の仕訳を行いなさい。なお、差額が生じた場合は雑収入・雑損失勘定を使用しなさい。

仮受消費税 650,000 / 仮払消費税 300,000  
仮払金 180,000  
未払消費税 165,000  
雑収入 5,000

期中に仮払金 180,000 / 現預金 180,000 の仕訳があった  
申告計算上の納税額（単純差額ではない）345,000 だが、中間で 180,000 払っている  
ので、未払額は差額の 165,000 円